

こころをつなぐまちづくり

人権シリーズ vol.71



2011年12月安岐町人権フェスティバルで発表する帯刀海人さん

いやな言葉

安岐小学校 五年

帯刀海人

この作品は、人権のまちづくり安岐部会の人権作文に応募された国東市立安岐小学校六年（当時五年）の帯刀海人さんの作品です。

ぜんぜん楽しくありませんでした。そして三時間目、四時間目もいやな気持ちが続きました。

ぼくは、このままではいやだったので、勇気を出してあやまりました。

「ごめん。さっきは悪かったな。」すると、友だちは、ちよつとほつとしたような顔で、

「いいよ。次からは仲よくしようぜ。」といってくれました。

お昼休みからは、気持ちが楽になって、急に授業もやる気がわいてきました。

ぼくは、友だちをこれ以上いやな気持ちにさせたくないので、もう二度と悪口を言わないようにしようと思いました。そして、まわりの友だちが悪口を言っていたても、「ダメだよ。そんなこと言っちゃ。」

と言って止められるような人になりたいです。

悪口や差別は、その人の心をかんとんに傷つけてしまう、とてもこわい事です。

ぼくにも、反省しなければいけないことがたくさんあります。ようち園のころ、ぼ



くは人の体のことの悪口をいっていました。そして、先生におこられました。今考えると、とてもひどいことを言っていたと思います。そのときはあまりわからなかったけれど、今では、おこられて当たり前だと思っています。

ぼくは、あることに気がつきました。悪口や差別は言った人ややられた人はわすれていても、言われたりやられた人は一生わすれないということです。これからはぼくはこのことをわすれずに、みんなと生活していきたいです。

平成二十三年度、行政区別人権学習会のテーマ「人権を行動する」をまきに行ってくれています。

私達大人もぜひ見習って行動に移せる人権感覚を身につけたいものです。

第5回国東市隣保館まつり「川柳」応募作品

☆被災の子親恋う心内に秘め
☆君の声僕の心に響いてる

安岐町 松矢和子
武蔵町 河野隼也